

農研機構(国)や道の試験場等で育成された優良牧草品種のご案内です。《北海道版》



自給飼料の増産を支援、土地基盤に立脚した畜産をサポートします。

一般社団法人 日本草地畜産種子協会
 電話：03-3251-6501
 HP: <http://souchi.lin.gr.jp>
 【北海道支所】
 電話：011-382-8989

2022.8 作成



チモシー「なつぴりか」

登録品種；海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

- ・中生品種の早で多収。特に2番草が多収。
- ・耐倒伏性に優れ、マメ科牧草との混播栽培条件下で草種合計収量およびチモシー収量が多く、混播適性が優れ、採草利用に向く。
- ・斑点病抵抗性は極めて優れる。
- ・栽培適地は、北海道全域。

育成：北見農業試験場



チモシー「クンフウ」

- ・極早生品種で出穂始めが「ノサップ」より1週間早い。直立型で茎は太い。
- ・異なる熟期の品種と組み合わせることで、刈取適期幅の拡大が可能。
- ・再生力旺盛、マメ科牧草との混播も良好。
- ・栽培適地は、北海道全域。

育成：北見農業試験場



チモシー「ノサップ」

- ・早生品種で直立型の採草用の代表品種。
- ・異なる熟期の品種と組み合わせることで、刈取適期幅の拡大が可能。
- ・安定品種で30年以上使用されているロングセラー品種。
- ・栽培適地は、北海道全域。

育成：北見農業試験場



チモシー「キリタツフ」

- ・中生品種の晩で早生品種より出穂は10日遅いが多収。
- ・マメ科牧草との混播適性も良好。
- ・直立型で葉は細く、茎数は多い。
- ・斑点病、倒伏に比較的強く、耐寒性は強い。
- ・栽培適地は、北海道全域。

育成：北見農業試験場

《道内草地の現状》

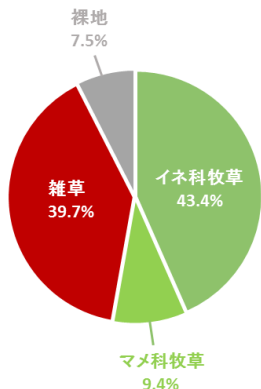
全道の草地の植生割合を見てみると…

牧草の割合は

イネ科とマメ科を合わせても52.8%。

残りの47.2%は

雑草と裸地が占めています。



平成24～26年に調査した12,003点の平均
 (北海道自給飼料改善協議会調べ)



チモシー「なつさかり」

登録品種；海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

- ・晩生品種で耐倒伏性に優れ、斑点病抵抗性も強い。
- ・草丈は1・2番草とも高く、穂長、葉長が長く、葉幅は広く、茎が太い。
- ・刈取適期幅に拡大が可能。採草に適する。
- ・栽培適地は、北海道全域。

育成：北見農業試験場



アカクロバ「ナツユウ」

登録品種；海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

- ・早生品種。混播適性に優れる。
- ・越冬性も優れる。早生品種の中では競合力が小さく、チモシーを抑圧しにくい。
- ・うどんこ病、菌核病には強いが、黒葉枯病にやや弱い。
- ・栽培適地は、北海道全域。特に少雪地帯。

育成：根釧農業試験場・北海道農業試験場

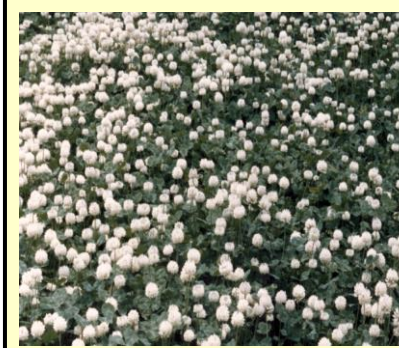


アカクロバ「リョクユウ」

登録品種；海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

- ・早生品種。競合力は強く、永続性に優れる。耐寒性はやや強い。
- ・オーチャードグラス及びチモシー極早生品種との混播適正に優れる。
- ・栽培適地は、北海道全域。

育成：根釧農業試験場・北海道農業研究センター



シロクロバ「マキバシロ」

- ・中葉型に分類され、その中でもやや大きめの中葉サイズ。
- ・中葉型では競合力に強い。
- ・混播適性、永続性に優れ、放牧適性に優れる。
- ・栽培適地は、北海道と東北地域の寒冷地。

育成：東北農業試験場